

経蔵

な るほど その7 本願寺

虎溪の庭

中国廬山(ろざん)のふもと虎溪を模して造られた江戸初期の枯山水庭園。御影堂の屋根を廬山に見せた借景の技法を取り入れています。



経蔵

経蔵に納められている『大蔵経(一切経)』は天海僧正の開版されたもので、寛永12(1635)年、江戸の寛永寺で発起し、12ヵ年をかけて完成しました。天海版または寛永版とも称されます。幕府の要請と本願寺第13代良如宗主の希望により慶安元(1648)年9月に銀27貫目で購入しました。



住職レター

年末の風物詩となりました「今年の漢字」。今年「北」でありました。今年の世相を表す漢字です。今年「北」なものでありましょう。善教寺の「今年の漢字」は、「墓」です。「墓」で始まり、「墓」を思い、「墓」を考え、「墓」を案じて、

各墓所にお参りした際、改めて他の墓に目をやってみましたが、なんと無縁墓の多い事でしょうか。中には、地震で倒壊したままの無残な墓もありました。このようなお墓を見ると、心が痛みます。ここ数年、新しく善教寺門徒になられる方が増え、

その方々にお墓を建碑して頂けたらと思ひ、善教寺墓苑を開山しました。しかし予想以上に、既存の立派なお墓を善教寺墓苑にお引越され方が多かったです。自分が入るお墓について、家族みなで話し合い、五十年先、百年先を見据えて、お墓を建碑して頂けたらと思ひます。